

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

歯科技工における多職種連携の有効性に関する研究

研究分担者 赤川 安正 昭和大学 客員教授

研究要旨

I. 業務・教育内容検討WG

- 歯科技工業務の範囲拡大等に伴い必要とされる教育内容について、具体的な教育方法の検討等を行う。

構成メンバー

赤川安正（昭和大学・客員教授）
大島克郎（日本歯科大学東京短期大学・教授）
高橋英和（東京医科歯科大学・名誉教授）
北村知昭（九州歯科大学・教授）
田地 豪（広島大学・准教授）
水口 一（岡山大学・講師）
窪木拓男（岡山大学・教授）

A. 研究目的

平成30年から令和元年にわたって行われた『歯科技工士の養成・確保に関する検討会』の報告書において、歯科技工業の内容や歯科技工士の教育内容について検討することの必要性が示された。そのため、令和2年度の厚生労働科学特別研究『歯科技工士の業務内容の見直しに向けた調査研究』において、業務範囲に関する意識調査が実施された。この研究により、歯科技工士が診療室チェアサイドおよび訪問歯科診療先で実施可能な業務内容や、今後、歯科技工士に求められる業務内容について整理され、歯科技工士の業務内容に関する議論の基礎資料が得られた。さらに、令和3,4年度の『歯科技工業務に関する調査研究』では、歯科技工士がチェアサイ

ドおよび訪問歯科診療先で実施することが望まれる業務内容と課題、およびそれらの業務を行うにあたっての教育内容について歯科技工士養成施設等にアンケート調査やヒアリング調査を行い、現状の把握と課題について整理した。ただし、具体的な教育方法については十分な検討がされてなかった。

本WGが行う本年度の研究の目的は、歯科技工士が診療室のチェアサイドおよび訪問歯科診療先で実施することが望まれる業務を行う上で、必要とされる具体的な教育方法について検討することにある。

B. 研究方法

歯科技工業務の範囲拡大等に伴い必要とされる教育内容について、具体的な教育方法を検討するため、新たに教育内容記入シート（表1）を作成、候補となる11の行為ごとに、必要な教育形態・時間・場所や制度などの項目について検討した。

【候補となる行為】

- ①患者と接する行為（総論）
- ②色調選択（歯冠修復治療）
- ③歯冠修復物の研磨（歯冠修復治療）

- ④人工歯選択（全部床義歯治療）
- ⑤チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（全部床義歯治療）
- ⑥人工歯選択（部分床義歯治療）
- ⑦チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（部分床義歯治療）
- ⑧口腔内写真の撮影（低侵襲治療）
- ⑨口腔内スキャナを用いる光学印象（低侵襲治療）
- ⑩咀嚼能力検査（グミゼリー）（低侵襲治療）
- ⑪義歯を口腔内から取り外す（低侵襲治療）

【検討項目】

1. 必要な教育形態・時間・場所
 - ・形態（講義／模型実習／相互実習／臨床見学）
 - ・時間（1 コマ 50 分を標準とする）
 - ・場所（講義室／実習室／診療室）
 - ・内容コンテンツ
2. 制度
 - ・誰が（現在の教員が／オンライン講師が／オンデマンド講師が／研修制度の講師が／研修コースの講師が）
 - ・どこで（現在の養成施設で／他の養成施設で／研修施設で／他の研修施設で／中央で）
 - ・どのようにして（設計されるプログラムで／研修制度の中で設計されるプログラムで／研修コースの中で設計されるプログラムで）
 - ・内容コンテンツ

（表 1：教育内容記入シート 参照）

（倫理面への配慮）

本研究は、歯科技工業務の範囲拡大等に伴い必要とされる教育内容等を、研究班の構成

メンバー間で協議のうえ作成したものであり、人や動物等を対象に行った研究ではないため、各関係倫理指針の適用対象外である。

C. 研究結果

結果は、「候補となる行為」ごとに示した。

（表 2-1～2-11：教育方法の検討結果 参照）

（表 3：教育方法をまとめた一覧 参照）

[1] 患者と接する行為（総論）

[1-1] 教育内容

「患者と接する行為」に必要な教育内容は、以下の7つとした。

- ①コミュニケーション論
- ②医療倫理
- ③チーム医療論
- ④介護（訪問診療のため）
- ⑤感染予防
- ⑥医療安全
- ⑦高齢者の状態把握

[1-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑦は講義（講義室）で、教育内容④はさらに相互実習（実習室）や臨床見学（診療室）でもそれぞれ教育することが必要であるとした。

患者と接する行為は、他の行為のベースとなり重要であることから、講義と実習を併せて 50 分×15 回の授業とすることが望ましいとした。

[1-3] 制度について

基本的に卒前での履修がよいと考え、現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。た

だし、教育内容④については、研修コースでの履修がよいとした。

[2] 色調選択（歯冠修復治療）

[2-1] 教育内容

「色調選択」に必要な教育内容は、以下の5つとした。

- ① 診療過程での位置付け
- ② 色調の表示
- ③ 色調の選択
- ④ 色調の伝達
- ⑤ 歯科訪問診療における上記の行為

[2-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑤は講義（講義室）で100分、教育内容②③④はさらに相互実習（実習室）で100分、教育内容①～⑤はさらに臨床見学（診療室）で100分、それぞれ教育することが必要であるとした。

なお、臨床見学は必要に応じて実施することとした。

講義では、色調選択における基本的な知識や測定方法、評価方法について習得すること、また、色調選択時には、患者の口唇等に触れるため、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましいとした（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得してもよいとした）。

相互実習では、学生間で組みになり、シェードガイドを用いて視感比色法により色調選択を習得することとした。併せて、色調選択は照明などの環境条件に影響を受けることを習得することとした。

なお、臨床見学を実施できる環境が整備されている場合には、色調選択の一連の過程を実際に見て学ぶことが望ましいとした。

[2-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計され

るプログラムの中で教育することが望ましいとした。

[3] 歯冠修復物の研磨（歯冠修復治療）

[3-1] 教育内容

「歯冠修復物の研磨」に必要な教育内容は、以下の5つとした。

- ① 診療過程での位置付け
- ② 研磨の目的
- ③ 研磨の手順
- ④ 研磨後の処理
- ⑤ 歯科訪問診療における上記の行為

[3-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑤は講義（講義室）で100分、教育内容②③④はさらに模型実習（実習室）で100分、教育内容①～⑤はさらに臨床見学（診療室）でも100分、それぞれ教育することが必要であるとした。なお、臨床見学は必要に応じて実施することとした。

講義では、研磨の意義や手順等について習得することとした。また、チェアサイドや歯科訪問診療帯同時に歯冠修復物の研磨を行う際は、特に感染予防対策に配慮する必要があるため、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましいとした（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得してもよいとした）。

模型実習では、金属やレジンなど各種材料への研磨方法を習得することとした（歯冠修復技工学等の実習において、既にカリキュラムに導入している場合は、その実施をもって習得したとみなすこととした）。なお、臨床見学を実施できる環境が整備されている場合には、チェアサイドにおける歯冠修復物の研磨等を実際に見学し、歯科技工室以外の場所での対応等を学ぶことが望ましいとした。

[3-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムの中で教育することが望ましいとした。

[4] 人工歯選択（全部床義歯治療）

[4-1] 教育内容

「人工歯選択（全部床義歯治療）」に必要な教育内容は、以下の6つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②人工歯の材質と形態
- ③人工歯の選択基準
- ④前歯部人工歯の選択
- ⑤臼歯部人工歯の選択
- ⑥歯科訪問診療における上記の行為

[4-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑥は講義（講義室）で50分、教育内容③④⑤はさらに模型実習（実習室）で50分、教育内容③④はさらに相互実習（実習室）でも50分、教育内容①～⑥は臨床見学（診療室）で50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、全部床義歯治療の流れの中での、人工歯選択に関わる知識を習得することとした。

模型実習では、標準線を参考にモールドガイドから適切な人工歯を選択することとした。

臨床見学では、人工歯選択のみならず、咬合採得での標準線の記入も併せて見学することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習することとした。

[4-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計され

るプログラムの中で教育することが望ましいとした。

[5] チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（全部床義歯治療）

[5-1] 教育内容

「チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（全部床義歯治療）」に必要な教育内容は、以下の5つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②義歯床の破折
- ③人工歯の破折・脱落
- ④義歯の清掃・管理・患者指導
- ⑤歯科訪問診療における上記の行為

[5-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑤は講義（講義室）で50分、教育内容②③はさらに模型実習（実習室）で150分、教育内容①～⑤はさらに臨床見学（診療室）でも50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、義歯の修理に関わる知識を習得することとした。

模型実習では、全部床義歯の実習で製作したものを破損させたり人工歯を脱落させたりして、修理の実習に利用することとした。

臨床見学では、修理のための印象採得や咬合採得を見学することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習することとした。

[5-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムの中で教育することが望ましい

とした。

[6] 人工歯選択（部分床義歯治療）

[6-1] 教育内容

「人工歯選択（部分床義歯治療）」に必要な教育内容は、以下の6つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②人工歯の材質と形態
- ③人工歯の選択基準
- ④前歯部人工歯の選択
- ⑤臼歯部人工歯の選択
- ⑥歯科訪問診療における上記の行為

[6-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑥は講義（講義室）で50分、教育内容③④⑤はさらに模型実習（実習室）で50分、教育内容③④はさらに相互実習（実習室）でも50分、教育内容①～⑥はさらに臨床見学（診療室）でも50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、部分床義歯治療の流れの中での、人工歯選択に関わる知識を習得することとした。

模型実習では、標準線を参考にモールドガイドから適切な人工歯を選択することとした。

臨床見学では、人工歯選択のみならず、咬合採得での標準線の記入も併せて見学することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習することとした。

[6-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムの中で教育することが望ましいとした。

[7] チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（部分床義歯治療）

[7-1] 教育内容

「チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（部分床義歯治療）」に必要な教育内容は、以下の8つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②支台装置の破損・脱落
- ③義歯床の破折
- ④人工歯の破折・脱落
- ⑤人工歯の追加（増歯）
- ⑥連結子・フレームワークの破折
- ⑦義歯の清掃・管理・患者指導
- ⑧歯科訪問診療における上記の行為

[7-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑧は講義（講義室）で50分、教育内容②③④⑤⑥はさらに模型実習（実習室）で150分、教育内容①～⑧はさらに臨床見学（診療室）でも50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、義歯の修理に関わる知識を習得することとした。

模型実習では、部分床義歯の実習で製作したクラスプやレストを破損させ、修理の実習に利用することとした。

臨床見学では、修理のための印象採得や咬合採得を見学することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを

学習することとした。

[7-3] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムの中で教育することが望ましいとした。

[8] 口腔内写真の撮影（低侵襲治療）

[8-1] 教育内容

「口腔内写真の撮影」に必要な教育内容は、以下の6つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②カメラの基本構造と操作方法
- ③口腔内撮影時の注意事項
- ④口腔内撮影
- ⑤記録した写真の保存方法（情報管理を含む）
- ⑥歯科訪問診療における上記の行為

[8-1] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑥を講義（講義室）で50分、教育内容④⑤を相互実習（実習室）で50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、口腔内撮影の意味とその基本操作について習得することとした。口腔内撮影時には、特に感染予防対策に配慮する必要がある、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましいとした（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得してもよいとした）。

相互実習においては、実際の口腔内撮影を行い、情報管理を含めた記録の保存方法を実習することとした。

また、行為②：「色調選択」と併せて教育することも可能とした。

[8-2] 制度について

現在の教員が、現在の養成施設で設計されるプログラムの中で教育することが望ましいとした。

また、講義はオンデマンド可能とした。

[9] 口腔内スキャナを用いる光学印象（低侵襲治療）

[9-1] 教育内容

「口腔内スキャナを用いる光学印象」に必要な教育内容は、以下6つとした。

- ①診療過程での位置付け
- ②CAD/CAM システム
- ③口腔内スキャナを用いた印象採得・咬合採得
- ④口腔内スキャナのデータの保存と転送
- ⑤データの管理（個人情報、情報リテラシー等を含む）
- ⑥歯科訪問診療における上記の行為

[9-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑥は講義（講義室）で50分、教育内容③④⑤はさらに相互実習（実習室）で150分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義のみならず、相互実習で口腔内スキャナを用いた印象採得・咬合採得を習得することとした。

卒前での教育が困難な場合には、卒後研修コースにて習得することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習することとした。

[9-3] 制度について

卒前での教育が困難な場合には、研修コースの講師が、研修施設において研修コースの中で設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。

[10] 咀嚼能力検査（グミゼリー）

（低侵襲治療）

[10-1] 教育内容

「咀嚼能力検査（グミゼリー）」に必要な教育内容は、以下の3つとした。

- ① 診療過程での位置付け
- ② 検査の目的
- ③ 検査の手順

[10-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①②③は講義（講義室）で50分、教育内容②③はさらに相互実習（実習室）で50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、義歯治療の流れの中での咀嚼能力検査の位置付け、検査の目的、検査の手順などを習得することとした。

相互実習では、検査の手順を習得することとした。

[10-3] 制度について

卒前での教育が困難な場合には、研修コースの講師が、研修施設において研修コースの中で設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。

[11] 義歯を口腔内から取り外す

（低侵襲治療）

[11-1] 教育内容

「義歯を口腔内から取り外す」に必要な教育内容は、以下の6つとした。

- ① 診療過程での位置付け
- ② 義歯の取り外しで生じるうる問題点
- ③ 全部床義歯の取り外し方法
- ④ 部分床義歯の取り外し方法
- ⑤ 義歯の清掃・管理・患者指導
- ⑥ 歯科訪問診療における上記の行為

[11-2] 必要な教育形態・時間・場所について

教育内容①～⑥は講義（講義室）で50分、教育内容③④⑤はさらに模型実習（実習室）で50分、教育内容③④⑤はさらに臨床見学（診療室）でも50分、それぞれ教育することが必要であるとした。

講義では、口腔内に装着されている可撤性床義歯を取り外す時の問題点と実際の取り外し方法、取り外した義歯の清掃方法について習得することとした。義歯の取り外し時には口腔内に触れるため、特に感染予防対策に配慮する必要がある、感染予防についても習得が望ましいとした（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得してもよ

いとした)。

模型実習では、模型上の義歯を適切に取り外し、義歯の洗浄方法を学習することとした。

臨床見学では、実際の患者で義歯の取り外しと洗浄を見学し、必要な注意事項について学習することとした。

歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習することとした。

[11-3] 制度について

卒前での教育が困難な場合には、研修コースの講師（またはオンデマンド講師）が、研修施設（または中央）において研修コースの中で設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。

D. 考察

1. 研究目的について

これまでの厚生労働科学特別研究において、歯科技工士が診療室チェアサイドおよび訪問歯科診療先で実施可能な業務内容や、今後歯科技工士に求められる業務内容などが整理され、さらに、選定した「候補となる行為」を歯科技工士が行うと仮定した場合の、現状の教育内容の把握と課題が整理されてきた。ただし、教育形態・時間・場所といった具体的な教育方法については十分検討されていなかったため、本年度で検討した。

研究結果から、歯科技工士が診療室のチェアサイドおよび訪問歯科診療先で実施することが望まれる業務を行う上で、必要とされる教育方法についてイメージできたと言え、研究の目的は到達したと考える。

2. 研究方法について

これまでの研究結果から、養成施設におけ

る教育の現状は把握できていたため、それらを踏まえて、具体的な教育方法を検討した。

1) 「候補となる行為」について

これまでの研究において、「歯科医師の指示のもとで歯科技工士が行ってもよいと考える行為」と「必要な教育・研修を受ければ、歯科医師の指示のもとで歯科技工士が行ってもよいと考える行為」の中から、仮の候補として17の行為を選定していた。さらに、医療安全上の問題があるとみなされる行為を除いた残りの11の行為を「候補となる行為」とした。行為の選定には、歯科技工士法との関わりを考慮したが、解釈が難しい行為もあった。歯科技工業務の拡大を目指すのであれば、今後、法的な裏付けについての検討も必要であると考えられた。

2) 教育内容記入シートについて

本研究では、新たに教育内容記入シート（表1）を作成し、具体的な教育方法の検討に役立てた。このシートには、行為の定義や教育目的、教育内容も記されており、具体的な教育方法を検討しやすいレイアウトになっていた。

3. 必要な教育方法について

1) 教育形態について

教育形態として、講義、模型実習、相互実習、臨床見学などがあるが、ここでは「候補となる行為」に応じたそれぞれの教育形態を検討した。行為によっては、既にカリキュラムに導入しているものもあった（例：「歯冠修復物の研磨」における模型実習）。その場合には、その実施をもって習得したとみなしてよいこととした。また、これまで講義と模型実習で終わっていた行為もあるかと思われるが、臨床見学も行い、技工室以外の場所での対応等を学ぶことが望ましいと考える。

2) 教育時間について

授業の組み立てや時間割等を考慮し、教育時間は1コマ50分を標準として検討した。行為によっては教育時間に差が生じることになるが、教育内容に応じた必要な時間が検討されたものとする。

3) 教育場所について

教育形態に応じた教育場所を検討した。すなわち、講義は講義室、模型実習や相互実習は実習室、臨床見学は診療室で行うこととした。行為によっては、実習室での実習で十分な場合もあると思われた。また、臨床見学が必要な場合もあった。これまでの研究結果では、臨床見学の必要性は理解できていても、場所の確保に苦慮している養成施設が多く見られた。この点が教育を進めていくうえで課題となるが、対策として学外実習の代替手段（動画教材で補完する等）を検討することが必要となろう。

4. 制度について

行為①～⑧については、現在の教員が、現在の養成施設で、設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。これらの行為は、基本的に卒前での履修がよいと考えられるが、歯科訪問診療に関係する部分は、動画コンテンツなどの活用を検討すべきと考える。

行為⑨～⑪については、卒前での教育が困難な場合、研修コースの講師が、研修施設において、研修コースの中で設計されるプログラムで教育することが望ましいとした。

候補となる行為すべてを卒前に教育することは、人・時間・場所の観点から困難である

ことから、一部の行為については、卒後に研修コースを受講する形となろう。ただし、行為①「患者と接する行為」は、すべての行為の根幹をなす重要なものであることから、卒前にしっかり時間をかけて教育すべきものとする。

E. 結論

歯科技工業務の範囲拡大等に伴い必要とされる教育内容について、具体的な教育方法の検討を行った。その結果、「候補となる行為」ごとに、必要と考える教育方法を明らかにできた。これらすべての行為を、卒前に現在の養成施設で教育することは困難であるため、動画コンテンツの活用やオンデマンド配信、卒後研修コースの設定など、DXを用いたスマートな工夫が必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

馬場一美, 安部友佳. 歯科技工業務に関する調査研究から業務・教育内容と医療情報の取り扱いを考える. 日本歯科医師会雑誌・76巻9号・672～673頁・2023年12月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1：教育内容記入シート（記入前）

候補となる行為を教育するために
行為：

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- 1 講義 分 講義室
- 2 模型実習 分 実習室
- 3 相互実習 分 実習室
- 4 臨床見学 分 診療室

【定義】

【教育目的】

【教育内容】

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input type="checkbox"/> 現在の教員が	<input type="checkbox"/> 現在の養成施設で	<input type="checkbox"/> 設計されるプログラムで	
<input type="checkbox"/> オンライン講師が	<input type="checkbox"/> 他の養成施設で		
<input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input type="checkbox"/> 中央で		
<input type="checkbox"/> 研修制度の講師が	<input type="checkbox"/> 研修施設で	<input type="checkbox"/> 研修制度の中で	
<input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input type="checkbox"/> 他の研修施設で	設計されるプログラムで	
	<input type="checkbox"/> 中央で		
<input type="checkbox"/> 研修コースの講師が		<input type="checkbox"/> 研修コースの中で	
<input type="checkbox"/> オンデマンド講師が		設計されるプログラムで	

表 2-1：教育方法の検討結果（行為①：患者と接する行為（総論））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **①患者と接する行為（総論）** これを1単位

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- 1 ■ 講義 分* 講義室 ①②③④⑤⑥⑦
- 2 □ 模型実習 分 実習室
- 3 ■ 相互実習 分* 実習室 ④
- 4 ■ 臨床見学 分* 診療室 ④

※1コマ50分を標準とする。

※ 講義・実習あわせて50分×15回の授業とする。

【定義】病院・診療所・訪問診療先等において、患者と直接コミュニケーションをとること。但し、医療面接は除く。

【教育目的】患者と接する行為を理解して実施できる。

【教育内容】①コミュニケーション論、②医療倫理、③チーム医療論、④介護（訪問診療のため）、⑤感染予防、⑥医療安全、⑦高齢者の状態把握

【制度】

誰が

- 現在の教員が
 - オンライン講師が
 - オンデマンド講師が
- 研修制度の講師が
- オンデマンド講師が
- 研修コースの講師が
 - オンデマンド講師が

どこで

- 現在の養成施設で
 - 他の養成施設で
 - 中央で

どのようにして

- 設計されるプログラムで
歯科技工と歯科医療*赤字で
- 研修制度の中で
設計されるプログラムで
- 研修コースの中で
設計されるプログラムで

内容コンテンツ

- ・現在の養成施設で卒前にしっかりと教育する。
- ・講義と実習をあわせて50分×15回の授業とする。
- ・研修制度を各校で実施するのは困難なため、研修コースを検討する。
- ・教育内容に「④介護（訪問診療のため）」があることから、2種類の制度を選択している。
- ・①②③⑤⑥については、学生時の履修がよいと考え、「現在の教員」「現在の養成施設」「設計されるプログラム」としている。
- ・④については、研修制度あるいは研修コースでの履修がよいと考え、「研修制度の講師」「研修施設」「研修制度のプログラム」としている。

表 2-2：教育方法の検討結果（行為②：色調選択（歯冠修復治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **②色調選択（歯冠修復治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--------|-------|-----|-------|
| 1 | ■ 講義 | 100 分 | 講義室 | ①②③④⑤ |
| 2 | □ 模型実習 | 分 | 実習室 | |
| 3 | ■ 相互実習 | 100 分 | 実習室 | ②③④ |
| 4 | ■ 臨床見学 | 100 分 | 診療室 | ①②③④⑤ |

※1コマ50分を標準とする。

※臨床見学は必要に応じて実施する。

【制度】

誰が

- 現在の教員が
- オンライン講師が
- オンデマンド講師が

- 研修制度の講師が
- オンデマンド講師が

- 研修コースの講師が
- オンデマンド講師が

どこで

- 現在の養成施設で
- 他の養成施設で
- 中央で

- 研修施設で
- 他の研修施設で
- 中央で

どのようにして

- 設計されるプログラムで

- 研修制度の中で設計されるプログラムで

- 研修コースの中で設計されるプログラムで

内容コンテンツ

・講義においては、色調選択における基本的な知識や測定方法、評価方法について習得する。また、色調選択時には、患者の口唇等に触れる可能性もあるため、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましい（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得しても差し支えない）。

・相互実習においては、学生間で組みになり、シェードガイドを用いて視感比色法により色調選択を習得する。併せて、色調選択は照明などの環境条件に影響を受けることを習得する。

・なお、臨床見学を実施できる環境が整備されている場合には、色調選択の一連の過程を実際に見て学ぶことが望ましい。

【定義】 個々の患者の歯や軟組織などに合わせて補綴装置の色調を選択または決めること。通常はそれぞれ専用のシェードガイドを用いる。

【教育目的】 色調選択を理解して実施できる。

【教育内容】 ①診療過程での位置付け、②色調の表示、③色調の選択、④色調の伝達、⑤歯科訪問診療における上記の行為

表 2-3：教育方法の検討結果（行為③：歯冠修復物の研磨（歯冠修復治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **③歯冠修復物の研磨（歯冠修復治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- 1 ■ 講義 100分 講義室 ①②③④⑤
- 2 ■ 模型実習 100分 実習室 ②③④
- 3 □ 相互実習 分 実習室
- 4 ■ 臨床見学 100分 診療室 ①②③④⑤

※1コマ50分を標準とする。

※臨床見学は必要に応じて実施する。

【定義】 歯冠部硬組織の欠損ならびに審美的障害に応用される修復物（歯冠修復物）の表面の付着物や凹凸を除去し、滑沢にして艶を出すこと。

【教育目的】 歯冠修復物の研磨を理解して実施できる。

【教育内容】 ①診療過程での位置付け、②研磨の目的、③研磨の手順、④研磨後の処理、⑤歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
----	-----	---------	---------

- 現在の教員が
- オンライン講師が
- オンデマンド講師が
- 研修制度の講師が
- オンデマンド講師が
- 研修コースの講師が
- オンデマンド講師が

- 現在の養成施設で
- 他の養成施設で
- 中央で
- 研修施設で
- 他の研修施設で
- 中央で

- 設計されるプログラムで
- 研修制度の中で設計されるプログラムで
- 研修コースの中で設計されるプログラムで

・講義においては、研磨の意義や手順等について習得する。また、チェアサイドや歯科訪問診療帯同時に歯冠修復物の研磨を行う際は、特に感染予防対策に配慮する必要がある。このため、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましい（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得しても差し支えない）。

・模型実習においては、金属やレジンなど各種材料への研磨方法を習得する（歯冠修復技工学等の実習において、既にカリキュラムに導入している場合は、その実施をもって習得したものとみなしてよい）。

・なお、臨床見学を実施できる環境が整備されている場合には、チェアサイドにおける歯冠修復物の研磨等を実際に見学し、歯科技工室以外の場所での対応等を学ぶことが望ましい。

表 2-4：教育方法の検討結果（行為④：人工歯選択（全部床義歯治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **④人工歯選択（全部床義歯治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--------|-----|-----|--------|
| 1 | ■ 講義 | 50分 | 講義室 | ①②③④⑤⑥ |
| 2 | ■ 模型実習 | 50分 | 実習室 | ③④⑤ |
| 3 | ■ 相互実習 | 50分 | 実習室 | ③④ |
| 4 | ■ 臨床見学 | 50分 | 診療室 | ①②③④⑤⑥ |

※1コマ50分を標準とする。

【定義】人工歯を排列するにあたり、患者の顔貌や口腔に調和するよう、その形態・大きさ・色調を選択または決めること。

【教育目的】全部床義歯治療での人工歯選択を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②人工歯の材質と形態、③人工歯の選択基準、④前歯部人工歯の選択、⑤臼歯部人工歯の選択、⑥歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input type="checkbox"/> 研修施設で <input type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義においては、全部床義歯治療の流れの中での、人工歯選択に関わる知識を習得する。 ・模型実習においては、標準線を参考にモールドガイドから適切な人工歯を選択する。 ・臨床見学においては、人工歯選択のみならず、咬合採得での標準線の記入もあわせて見学する。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 2-5：教育方法の検討結果（行為⑤：チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（全部床義歯治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑤チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（全部床義歯治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

	形態	時間	場所	内容コンテンツ
1	■ 講義	50分	講義室	①②③④⑤
2	■ 模型実習	150分	実習室	②③
3	<input type="checkbox"/> 相互実習	分	実習室	
4	■ 臨床見学	50分	診療室	①②③④⑤

※1コマ50分を標準とする。

【定義】チェアサイド・訪問診療先で、全部床義歯の義歯床の破損、人工歯の破折・破損・脱離などに対して、常温重合レジンなどを用いて修理すること。

【教育目的】チェアサイド・訪問診療先での全部床義歯の修理を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②義歯床の破折、③人工歯の破折・脱落、④義歯の清掃・管理・患者指導、⑤歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input checked="" type="checkbox"/> 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input type="checkbox"/> 研修施設で <input type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で	<input checked="" type="checkbox"/> 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで	<ul style="list-style-type: none"> ・講義においては、義歯の修理に関わる知識を習得する。 ・模型実習においては、全部床義歯の実習で製作したものを破損させたり人工歯を脱落させたりして、修理の実習に利用する。 ・臨床見学においては、修理のための印象採得や咬合採得を見学する。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 2-6：教育方法の検討結果（行為⑥：人工歯選択（部分床義歯治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑥人工歯選択（部分床義歯治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--------|-----|-----|--------|
| 1 | ■ 講義 | 50分 | 講義室 | ①②③④⑤⑥ |
| 2 | ■ 模型実習 | 50分 | 実習室 | ③④⑤ |
| 3 | ■ 相互実習 | 50分 | 実習室 | ③④ |
| 4 | ■ 臨床見学 | 50分 | 診療室 | ①②③④⑤⑥ |

※1コマ50分を標準とする。

【定義】人工歯を排列するにあたり、患者の顔貌や口腔に調和するよう、その形態・大きさ・色調を選択または決めること。

【教育目的】部分床義歯治療での人工歯選択を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②人工歯の材質と形態、③人工歯の選択基準、④前歯部人工歯の選択、⑤臼歯部人工歯の選択、⑥歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input type="checkbox"/> 研修施設で <input type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義においては、部分床義歯治療の流れの中での、人工歯選択に関わる知識を習得する。 ・模型実習においては、標準線を参考にモールドガイドから適切な人工歯を選択する。 ・臨床見学においては、人工歯選択のみならず、咬合採得での標準線の記入もあわせて見学する。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 2-7：教育方法の検討結果（行為⑦：チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（部分床義歯治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑦チェアサイド・訪問診療先での義歯の修理（部分床義歯治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

	形態	時間	場所	内容コンテンツ
1	■ 講義	50分	講義室	①②③④⑤⑥⑦⑧
2	■ 模型実習	150分	実習室	②③④⑤⑥
3	□ 相互実習	分	実習室	
4	■ 臨床見学	50分	診療室	①②③④⑤⑥⑦⑧

※1コマ50分を標準とする。

【定義】チェアサイド・訪問診療先で、部分床義歯の義歯床の破損、人工歯の破折・破損・脱離などに対して、常温重合レジンなどを用いて修理すること。

【教育目的】チェアサイド・訪問診療先での部分床義歯の修理を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②支台装置の破損・脱落、③義歯床の破折、④人工歯の破折・脱落、⑤人工歯の追加（増歯）、⑥連結子・フレームワークの破折、⑦義歯の清掃・管理・患者指導、⑧歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input checked="" type="checkbox"/> 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input type="checkbox"/> 研修施設で <input type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で	<input checked="" type="checkbox"/> 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで	・講義においては、義歯の修理に関わる知識を習得する。 ・模型実習においては、部分床義歯の実習で製作したクラスプやレストを破損させ、修理の実習に利用する。 ・臨床見学においては、修理のための印象採得や咬合採得を見学する。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 2-8：教育方法の検討結果（行為⑧：口腔内写真の撮影（低侵襲治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑧口腔内写真の撮影（低侵襲治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--|-----|-----|--------|
| 1 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 | 50分 | 講義室 | ①②③④⑤⑥ |
| 2 | <input type="checkbox"/> 模型実習 | 分 | 実習室 | |
| 3 | <input checked="" type="checkbox"/> 相互実習 | 50分 | 実習室 | ④⑤ |
| 4 | <input type="checkbox"/> 臨床見学 | 分 | 診療室 | |
- ※1コマ50分を標準とする。講義はオンデマンド可。

【定義】 カメラを用いて、口腔内の諸組織を撮影すること。

【教育目的】 口腔内写真の撮影を理解して実施できる。

【教育内容】 ①診療過程での位置付け、②カメラの基本構造と操作方法、③口腔内撮影時の注意事項、④口腔内撮影、⑤記録した写真の保存方法（情報管理を含む）、⑥歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input checked="" type="checkbox"/> 現在の教員が <input checked="" type="checkbox"/> オンライン講師が <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input type="checkbox"/> 研修施設で <input type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で	<input checked="" type="checkbox"/> 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで	・講義においては、口腔内撮影の意味とその基本操作について習得する。口腔内撮影時には、特に感染予防対策に配慮する必要がある。このため、感染症や感染経路の分類等について習得することが望ましい（行為①：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得しても差し支えない）。 ・相互実習においては、実際の口腔内撮影を行い、情報管理を含めた記録の保存方法を実習する。 ・行為②：「色調選択」と合わせて教育することも可能である。 ・一斉に相互実習を行おうとすると、カメラ等の多数の器材が必要となるので工夫が必要である。

表 2-9：教育方法の検討結果（行為⑨：口腔内スキャナを用いる光学印象（低侵襲治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑨口腔内スキャナを用いる光学印象（低侵襲治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--|------|-----|--------|
| 1 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 | 50分 | 講義室 | ①②③④⑤⑥ |
| 2 | <input type="checkbox"/> 模型実習 | 分 | 実習室 | |
| 3 | <input checked="" type="checkbox"/> 相互実習 | 150分 | 実習室 | ③④⑤ |
| 4 | <input type="checkbox"/> 臨床見学 | 分 | 診療室 | |
- ※1コマ50分を標準とする。

【定義】口腔内スキャナを用いて、直接対象物に触れずに光学的に物体の三次元的な形状を計測し、デジタル化する印象法のこと。

【教育目的】口腔内スキャナを用いる光学印象を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②CAD/CAMシステム、
③口腔内スキャナを用いた印象採得・咬合採得、
④口腔内スキャナのデータの保存と転送、⑤データの管理（個人情報、情報リテラシー等を含む）、⑥歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input type="checkbox"/> 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input checked="" type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input type="checkbox"/> 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input checked="" type="checkbox"/> 研修施設で <input checked="" type="checkbox"/> 他の研修施設で <input type="checkbox"/> 中央で	<input type="checkbox"/> 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input checked="" type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで	・講義のみならず、相互実習で口腔内スキャナを用いた印象採得・咬合採得を習得する。 ・卒前での教育が困難な場合には、卒後研修コースにて習得することとする。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 2-10：教育方法の検討結果（行為⑩：咀嚼能力検査（グミゼリー）（低侵襲治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑩咀嚼能力検査（グミゼリー）（低侵襲治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | |
|---|--|-----|---------|
| 1 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 | 50分 | 講義室 ①②③ |
| 2 | <input type="checkbox"/> 模型実習 | 分 | 実習室 |
| 3 | <input checked="" type="checkbox"/> 相互実習 | 50分 | 実習室 ②③ |
| 4 | <input type="checkbox"/> 臨床見学 | 分 | 診療室 |
- ※1コマ50分を標準とする。

【定義】食物を切断・破碎・粉碎して食塊を形成して、これを嚥下するまでの一連の能力（咀嚼能力）を検査すること。

【教育目的】咀嚼能力検査（グミゼリー）を理解して実施できる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②検査の目的、③検査の手順

【制度】

誰が

- 現在の教員が
- オンライン講師が
- オンデマンド講師が

- 研修制度の講師が
- オンデマンド講師が

- 研修コースの講師が
- オンデマンド講師が

どこで

- 現在の養成施設で
- 他の養成施設で
- 中央で

- 研修施設で
- 他の研修施設で
- 中央で

どのようにして

- 設計されるプログラムで

- 研修制度の中で設計されるプログラムで

- 研修コースの中で設計されるプログラムで

内容コンテンツ

- ・講義では、義歯治療の流れの中での咀嚼能力検査の位置付け、検査の目的、検査の手順などを習得する。
- ・相互実習では、検査の手順を習得する。
- ・卒前での教育が困難な場合には、卒後研修コースにて習得することとする。

表 2-11：教育方法の検討結果（行為⑪：義歯を口腔内から取り外す（低侵襲治療））（記入後）

候補となる行為を教育するために

行為： **⑪義歯を口腔内から取り外す（低侵襲治療）**

【必要な教育形態・時間・場所】

形態	時間	場所	内容コンテンツ
----	----	----	---------

- | | | | | |
|---|--------|-----|-----|--------|
| 1 | ■ 講義 | 50分 | 講義室 | ①②③④⑤⑥ |
| 2 | ■ 模型実習 | 50分 | 実習室 | ③④⑤ |
| 3 | □ 相互実習 | 分 | 実習室 | |
| 4 | ■ 臨床見学 | 50分 | 診療室 | ③④⑤ |
- ※1コマ50分を標準とする。

【定義】口腔内に装着されている可撤性床義歯を取り外して、口腔外に出すこと。

【教育目的】口腔内に装着されている可撤性床義歯を適切に取り外せる。

【教育内容】①診療過程での位置付け、②義歯の取り外しで生じるうる問題点、③全部床義歯の取り外し方法、④部分床義歯の取り外し方法、⑤義歯の清掃・管理・患者指導、⑥歯科訪問診療における上記の行為

【制度】

誰が	どこで	どのようにして	内容コンテンツ
<input type="checkbox"/> 現在の教員が <input type="checkbox"/> オンライン講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input type="checkbox"/> 研修制度の講師が <input type="checkbox"/> オンデマンド講師が <input checked="" type="checkbox"/> 研修コースの講師が <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド講師が	<input type="checkbox"/> 現在の養成施設で <input type="checkbox"/> 他の養成施設で <input type="checkbox"/> 中央で <input checked="" type="checkbox"/> 研修施設で <input checked="" type="checkbox"/> 他の研修施設で <input checked="" type="checkbox"/> 中央で	<input type="checkbox"/> 設計されるプログラムで <input type="checkbox"/> 研修制度の中で設計されるプログラムで <input checked="" type="checkbox"/> 研修コースの中で設計されるプログラムで	・講義においては、口腔内に装着されている可撤性床義歯を取り外す時の問題点と実際の取り外し方法、取り外した義歯の清掃方法について習得する。義歯の取り外し時には口腔内に触れる必要があるため、特に感染予防対策に配慮する必要がある。このため、感染予防についても習得することが望ましい（行為⑪：「患者と接する行為（総論）」の授業において習得しても差し支えない）。 ・模型実習においては、模型上の義歯を適切に取り外し、義歯の洗浄方法を学習する。 ・臨床見学においては実際の患者さんと義歯の取り外しと洗浄を見学し、必要な注意事項について学習する。 ・歯科訪問診療では、高齢者の状態把握、在宅医療の概要、さらには歯科訪問診療の現況や訪問介護の介護職が歯科に求める例などを学習する。

表 3：教育方法をまとめた一覧

教育内容記入シートまとめ

	1. 患者と接する	2. 色調選択	3. 研磨	4. 人工歯 (全)	5. 修理 (全)	6. 人工歯 (部)	7. 修理 (部)	8. 撮影	9. 光学印象	10. 咀嚼検査	11. 義歯脱	
教育内容	①コミュニケーション ②医師の役割 ③チーム医療 ④患者 (特別診療のため) ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②人工歯の材料と形態 ③人工歯の材料と形態 ④人工歯の材料と形態 ⑤人工歯の材料と形態 ⑥人工歯の材料と形態 ⑦人工歯の材料と形態	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②人工歯の材料と形態 ③人工歯の材料と形態 ④人工歯の材料と形態 ⑤人工歯の材料と形態 ⑥人工歯の材料と形態 ⑦人工歯の材料と形態	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	①診療過程での位置付け ②患者の不安 ③患者の不安 ④患者の不安 ⑤患者の不安 ⑥患者の不安 ⑦患者の不安	
必要な教育形態	講義 (180分 講義①②③④⑤⑥⑦)	講義 (180分 講義①②③④⑤)	講義 (180分 講義①②③④⑤)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥)	講義 (50分 講義①②③④⑤)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥⑦)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥⑦)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥⑦)	講義 (50分 講義①②③④⑤⑥⑦)	講義 (90分 講義①②③④⑤⑥⑦)	
時間	相互実習 (180分 実習①②③④)	相互実習 (180分 実習①②③④)	相互実習 (180分 実習①②③④)	相互実習 (50分 実習①②③④)	相互実習 (50分 実習①②③④)	相互実習 (50分 実習①②③④⑤⑥)	相互実習 (50分 実習①②③④⑤⑥⑦)	相互実習 (50分 実習①②③④⑤⑥⑦)	相互実習 (50分 実習①②③④⑤⑥⑦)	相互実習 (50分 実習①②③④⑤⑥⑦)	相互実習 (90分 実習①②③④⑤⑥⑦)	
場所	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (90分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	
内容コンテンツ	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (180分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (50分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	臨床見学 (90分 診察室①②③④⑤⑥⑦)	
制度	現在の教員が ・研修コースの講師が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで	現在の教員が ・現在の養成施設で ・設計されるプログラム ・研修コースの中で設計されるプログラムで